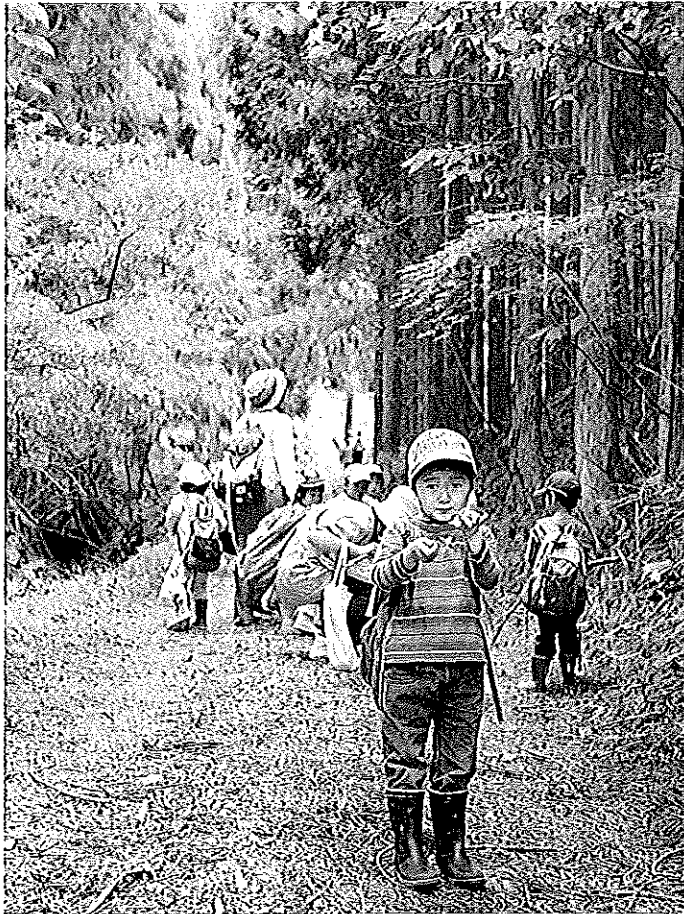


とっとり暮らし

自然豊かな子育て環境、
そして温かい人たちが迎えます



来



楽

暮

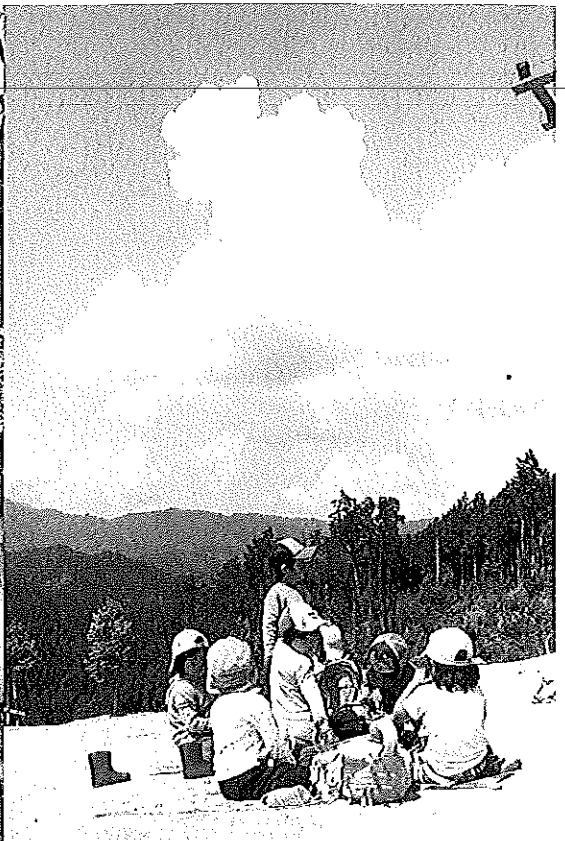
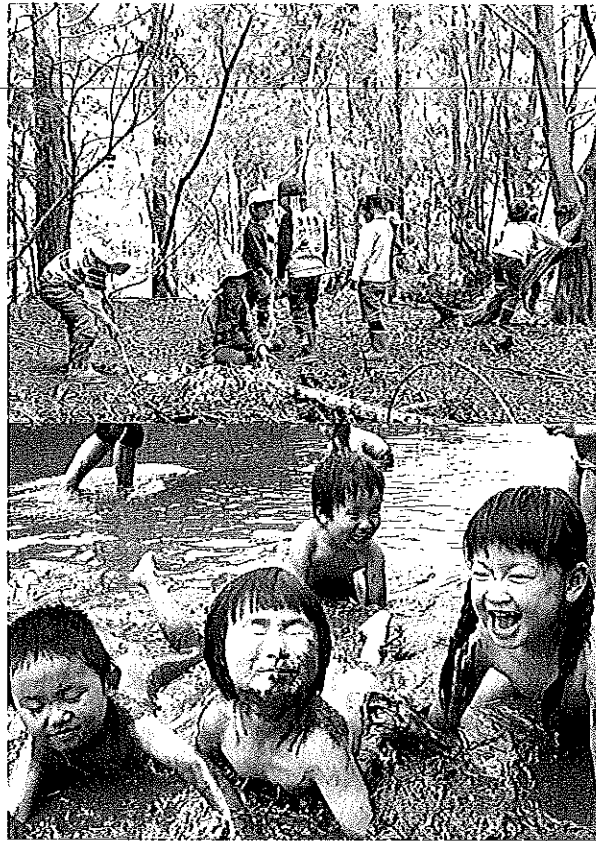


【田舎暮らしの本】特別編集 ©宝島社 2014

東京都から
鳥取市
河原町
（比良山系）

自然の息吹を感じながら
子どもを育てる

●白岡崇さん ●あゆみさん ●葉ちゃん



鳥取県智頭町(ちづちょう)の「森のようちえん」。ここへの入園を希望して移住する人が増えている。

のびのび子育て&暮らす!

鳥取県は、子どもたちを自然のなかで自由に育てる「森のようちえん」があるほか、小児科や保育所の数が多いなど、まさに「子育て王国とっとり」。なにより、みずみずしい緑と美しい海といった豊かな自然は子育てに最適です。

とっとり
暮らし 2

埼玉県から
鳥取市
青谷町
（比良山系）

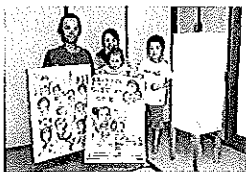
美しい砂浜と星空の町に
息づくやさしい時間

●宮本栄一さん ●みゆきさん
●一平くん ●らんちゃん



近くの砂浜は歩くとキュッキュッと音がする。夜には満天の星がまたたく。

栄一さんが描いた似顔絵のポスター。地元でお盆に飾られるあんどんに、栄一さん作の透かし絵が入られた。



鳥取市の市街地から西へ約25キロ。日本海に面した砂浜まで歩いて5分の鳥取市青谷町に住むのは、2011年9月に移住した宮本さんファミリー。

岡山県で育った栄一さんは画家を目指して上京、20数年間東京周辺で過ごし、似顔絵画家としてイベントやお祭りなどで筆をとってきた。移住した理由は、両親が出身地である鳥取県倉吉市に戻ったため。両親の近くにいるのが安心だと思いついた。

子どもたちのことを考えて学校に近い家を探したところ、ちょうど小学校まで徒歩3分という

家が借りられた。その土地になじんでいきたいと考えていた宮本さんは、運動会や祭りなど、地域の行事には進んで参加する。

「鳥取県は人がやさしいです。助け合いの精神が強い。私たちもいったん受け入れてもらってからは、よそ者の扱いは一度も受けていません」

似顔絵画家の仕事は、鳥取県では地方紙に取り上げられるなど、想像以上に注目された。

「仕事のうえでも家族と暮らすにも、ゆつたりした時間のなかで日々過ごせるのが、鳥取のよさだと思います」



家の近くの田んぼの道を、元気いっぱい葉ちゃんとお散歩。



葉ちゃんは、鳥取市内から送迎バスで「森のようちえん」まるたんぼうに通っている。

「山や川が身近にあつて、音や匂いなど、五感を使つてからだで感じられるところに住みたいと思つていました」
白岡あゆみさんは2012年春、東京都内から「アユの町」として有名な鳥取市河原町に家族で移り住んだ。
あゆみさんの生まれは岐阜県内の山村。子どもだけで自然のなかを遊び回つた経験は、今も心のベースにある。「娘にも山や



いいね! 鳥取CM

鳥取県へ移住した方の様子をお届けしている「いいね! 鳥取CM」から、1組の移住者をご紹介します。

◎上田 誠さん ◎千代さん
(東京都、岡山県から移住)

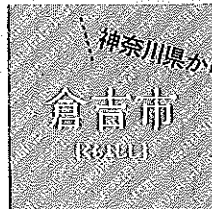


子どもを「森のようちえん」に通わせ、自然の恵みを受けながら子育て中。

川で遊ぶ体験を伝えたかった。それが移住を考えた理由です」。
家具をはじめ、さまざまなお品をデザインをこなす夫の崇さんが出身地・鳥取県での仕事も手がけるようになり、鳥取県を候補に加えた。鳥取市に隣接する智頭町の「森のようちえん」へ見学に行き、共感したことが大きなきっかけになった。
移住後、崇さんは県内でものづくりをしている人たちと一緒に海外で展示会を開くなど、鳥取発の仕事が増えている。
葉ちゃんは「森のようちえんまるたんぼう」へ通園している。最初は森や虫を怖がつっていた葉ちゃんだが、すぐに慣れて、今では元気に野山を駆け回る毎日だ。山や川が身近に感じられる鳥取県で、葉ちゃんのはのびのびと育っている。

鳥取県で

とっとり暮らし 3



周囲に気兼ねすることなく、子どもが元気に遊べる環境

◎葛窪隼人さん ◎千寿さん
◎奈未ちゃん ◎一波くん



家の近くの公園で遊ぶ葛窪さん家族。市内には、広い公園や施設など、子どもが安心して遊べる場所がたくさんある。

白壁土蔵群があり、城下町の風情が漂う倉吉市に、神奈川県茅ヶ崎市から移住した葛窪さん家族。「子どもたちのために、田舎への移住を考えるようになりました」と隼人さん。
お試し住宅を利用するなど、鳥取県に何度も足を運ぶ。日帰り温泉施設で出会った人が一晩家に泊めてくれたことも。困っているとき、出会った人たちが手をさしのべてくれる。鳥取県の人の温かさが移住への後押しとなった。

2013年3月に引っ越した葛窪さん家族。その際、地域の自治会の人々が「葛窪さん家族が神奈川県から来ました。みなさんよろしくお願いします」と書いた回覧板を回してくれた。以前は子どもたちに「静かに」と言うことが多かった千寿さん。「でも、ここでは周りに気を使わず、自由に育てられるのがうれしいです」と笑う。神奈川県にいたときは野菜も果物も食べなかつた一波くんは、鳥取県に来てからは食べるようになった。
週末には家族みんなで大好きなサーフィンに出かける。鳥取県で、仕事も趣味も楽しめる新しい暮らしを手に入れた。

※「とっとり自慢」は、「地域の原材料を生かし、地域の文化や技術にこだわりをもってつくられる食品」として鳥取県商工会連合会が認めたもの。

とっとり暮らし 4



ハーブ農家として新規就農。自慢のソースに加工

樋口浩司さん

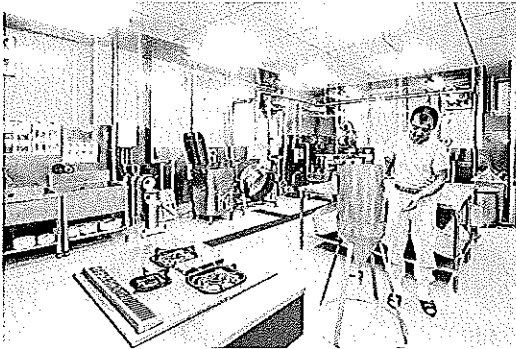
「とっとり自慢」に認定されたバジルソース。材料のハーブを栽培し、加工、販売するのは、東京から鳥取県湯梨浜町へ移住した樋口浩司さんだ。

湯梨浜町は、日本海に面し、東郷池の湖畔にある羽合温泉や東郷温泉が有名などかな町。自然が好きで、アウトドアが趣味だという樋口浩司さんは、群馬県や富山県などを点々とし、2004年、海が近い湯梨浜町の家を購入、引っ越してきた。

移住後、アルバイトのかたわら市民農園を借りてハーブや野菜を育てたのがきっかけで、鳥取県や農協の職員から「本格的にやらないか」とすすめられて農家になった。

「ゼロからのスタートは大変でしたが、周りの人たちに支えられてここまでできました」と話す。

現在は、8棟のハウスを合計、約90坪の畑でバジルなど数十種類のハーブとメロン、ニンニクなどをつくっている。また、遊休農地を開拓してオリーブ栽培も手がけ、その栽培においては県内



自前の道具を持ち込み、町の施設で加工する。

の第一人者だ。

イタリアンレストランで働いた経験から始めたのがハーブソース。添加物・保存料は使用せず、一番搾りのオリーブオイルに農園で栽培しているフレッシュバジルやニンニクなどを加えてつくる。「一部の素材は外から仕入れていますが、目標はオール湯梨浜産のソースです」と樋口さん。

地元の商工会に相談し、直売

県で自分らしく働く&暮らす!

豊かな農水産物に恵まれている鳥取県。それらを活用し、加工販売や飲食業などで起業する移住者が増えています。鳥取県では、起業のための支援をはじめ、無料職業紹介などの就職支援も積極的に行っています。

とっとり暮らし 5



素潜り漁で獲ったワカメを天日干しして出荷する会社を起業

中村隆行さん ● 加奈子さん



ウェットスーツを着て漁に出る中村さん。桶には素潜り漁で獲った魚介がいっぱい。

中国地方最高峰で、四季折々にさまざまな表情を持つ大山。その大山のふもとにある鳥取県大山町で、漁師を営む中村隆行さんは、2010年に株式会社漁師中村を設立した。

主な漁は素潜り漁で、サザエ、アワビ、岩ガキなどを獲る。また、特に人気があるのは3〜5月に新芽を摘みして天日干し保存するワカメ。県内のホテルなどと会社として取引している。

中村さんは埼玉県出身。埼玉

県に海がないことから海への憧れがあり、また自然とふれあう仕事がしたいと思っていた。そんなとき、転職雑誌で紹介された素潜り漁の体験事業に応募して2001年に大山町にきた。

それまでは東京の飲食店で働いていた中村さんは、当然、漁の経験はまったくない。親方について修業し、漁船での漁も学んで4年後に独立。

水深10メートルまで潜る漁は、慣れるまで大変だった。「最初は

いいね! 鳥取CM

鳥取県へ移住した方の様子をお届けしている「いいね! 鳥取CM」から、3組の移住者をご紹介します。

◎松本豪平さん

(東京都から鳥取市用瀬町へ移住)



靴職人に転職し、自然あふれる田舎の時間を楽しんでいます。

◎島内武文さん

(大阪府から鳥取市青谷町へ移住)



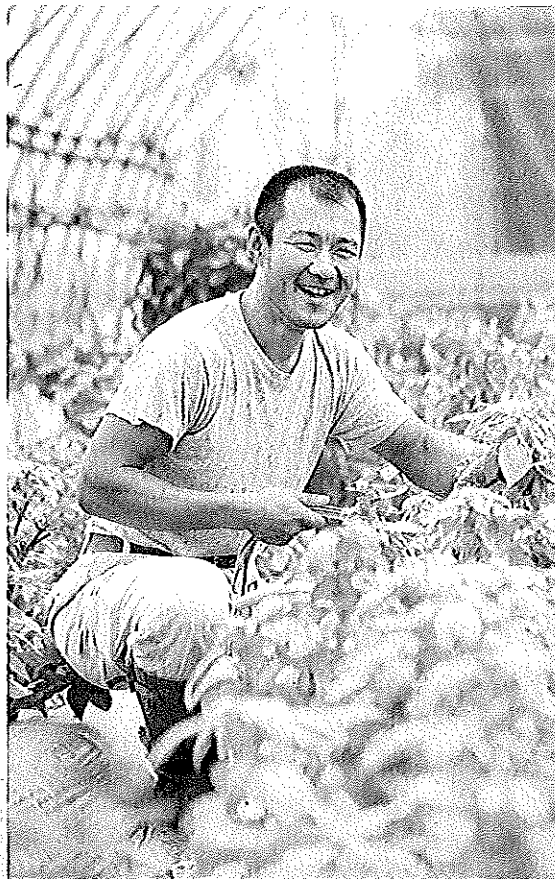
海をのぞむ場所にサーフィン教室を営み、とっとり暮らしを満喫。

◎西村公明さん

(兵庫県から伯耆町へ移住)



大山を一望できる素敵な場所で、パン屋を営む。



ハーブの畑でパジルを収穫する樋口さん。



試作を重ねてできた自慢のパジルソース。

所や鳥取県内のレストランなどで販売。現在は、売上げの約半分が、ソースを中心とする加工品だ。
「将来はこの場で味わってもらえるカフェも開けたらと思っています」

鳥取



温度・湿度が一定に保たれる蔵は、ワカメの貯蔵に適している。

妻の加奈子さんと、天日干したワカメを袋詰めする。



「築き会」の拠点として活用される町内の古民家。

ウェットスーツを着るだけでも手間がかかり、重りをつけても全然潜ることができませんでした。短期間に8キロもやせて過労で倒れたこともありです。
3カ月で潜ることができるようになり、半年でやつと1回の漁で約10キロのサザエが獲れるようになった。3年かかって一人前といわれるようになり、今では獲れる場所を見越して潜れるようになった。
「ゆつくり暮らそうと田舎にきました。海と山のどちらも見える景色が気に入っています」という中村さん。
地元の若手の起業家と、地域資源を再発見し、イターン希望者への相談も行う「築き会」も立ち上げた。
「新しい人と地元の人をつなげていければと思っています」

とっとり暮らし

6

鳥取市
鹿野町

NPO法人が中心になって、
相談に応じてくれる

若者と一緒に
夢を見てくれる

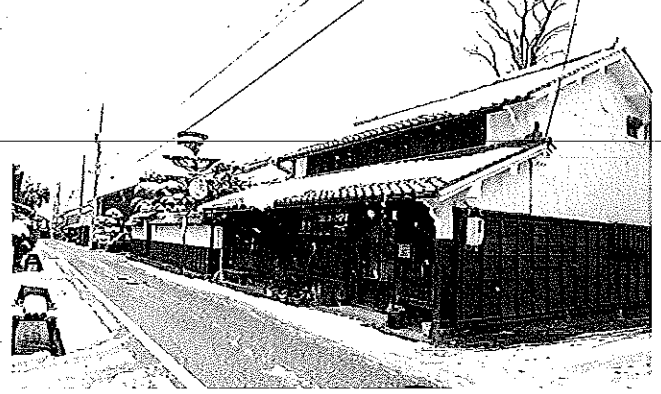
成瀬さんと稲荷さんがオープンした「八百屋bar」の「面り」は、鹿野城下町で初めての夜間営業の居酒屋だ。店舗は、協議会が改修をしていた空き家。



成瀬さん(写真・左)は大阪府出身。稲荷さんは愛媛県出身。鳥取県へ鳥取県出身の仲間と旅行に来た際の雰囲気がよく、2011年に鹿野町へ移り住む。

隣町に住んでいた2人が協議会メンバーから声をかけられ、「面白そう」と改修を引き継いだ。鹿野町は夢見る若者にやさしく、大人も一緒に楽しんでくれる。そこが、いいと話す2人。「都会と違い、ここでは僕たちがまちをどうするか考え、手がけることができます」と2人が笑う。

●成瀬望さん
●稲荷寛人さん



NPO法人
いんしゅう鹿野まちづくり協議会

城下町の面影が残る鳥取市鹿野町の景観を残そうと2001年に発足。空き家再生プロジェクトに取り組み、お土産処や食事処などに活用するほか、改修した家を移住者の住まいや工房・店舗などに貸している。2014年2月には、地域への貢献が認められ、地域づくり総務大臣表彰の団体表彰を受賞した。



理事長の佐々木千代子さん(写真・左)と、副理事長の小林清さん。

温もりを感じながら暮らす!

鳥取県のよさは、人の温かさや強い絆。そのため、地域全体で移住者を歓迎してくれるところが多くあります。こうした地域では、移住前の相談から移住後のフォローまであり、頼もしい限りです。



水と空気のきれいなところへの移住を考え、2012年12月に智頭町八河谷へ移住。集落の耕作放棄地を借り、自給自足の暮らしを目指す。優華さんは鳥取市出身。

とっとり暮らし

7

智頭町
八河谷

地元の人と一緒に
移住者が地域を元気にする

移住者を応援する
温かさに移住を即決

優華さんと一磨くんはアレルギーがあり、水と空気のきれいな移住先を探していた篤田さん。智頭町へ浩さん1人で訪れたところ、八河谷で綾木守さんに出会う。

「集落そのものが懐かしい感じがしました。なにより、温かな守さんの人柄にひかれ、ここに

住むと決めました」

綾木さんは八河谷集落の長のような人。「移住する人たちは大変な勇気で飛び込んできているはず。それに対し、全面的に協力するのが地元の役目です」。

優華さんは、「町ぐるみで子どもを守ってくれている安心感があります。町内を走る『すきっ子バス』も運転手さんや乗客が見守ってくれるので、子どもだけで通園させられます」と話す。

自給自足の生活を目指す篤田さん夫妻。地元の人たちの協力で、耕作放棄地を借りることができた。今後は、野菜の販売や米の作付けもする予定だ。

●篤田浩さん ●優華さん
●一磨くん

智頭町八河谷
智頭町のまちなかから車で約20分。八河谷集落は山間にあり、冬には2mもの雪が積もる。人口は34人で、2人に1人は65歳以上という限界集落だったが、2年で3組10人も移住した。



みなさんが温かく
手助けしてくれる

林さん夫妻は、「年とともにゆ
つたりした暮らしがしたくて」と
と、2010年に鹿野町に家を
建てて移住した。



宏一さん(写真・中央)は栃木県出身。
千幸さん(写真・右)は鳥取市青谷町(あ
おやちよう)の出身。2人とも長く東京に
いたが、宏一さんが鹿野町で働くことを
きっかけに移住。

家の思い出を残しつつ 新しい店舗に

歴史が好きなことから、城下
町で和風のパン屋さんを開きた
くて店舗を探していた岩佐さん
は、鹿野町で以前は歯医者だっ
た古民家と出会う。「一目で気に
入りました。以前に住まれてい
た方のことを想像しながら、使
えるものはできる限り活用して
います」と岩佐さん。

協議会の佐々木理事長は、「懐
かしい思い出の建物を大切に使
つてくれて、町の人も岩佐さん
に感謝しています」と話す。

●林宏一さん
●千幸さん

でもみなさんがよくしてくれ
ること」と千幸さんは話す。

移住して数年後、宏一さんの
リタイアを機に、家の隣で「ちゆ
き庵」という食事処を始めた。お
店のオープン時にも、協議会の
メンバーがあれこれと相談にの
ってくれた。

「食事と会話を楽しんで、みん
なが集まれる場所になればと思
つて開業しました」と宏一さん。
ちゆき庵は、地域の憩いの場
であるとともに、2人の生きが
いにもなっている。

●岩佐正敏さん

「鹿野町はみんなが親切で、特
に協議会の人は細かい相談にも
対応してくださるので助かって
います」
さまざまにサポートしてくれ
るNPOの存在は、移住者にと
つて心強い。



山口県で生まれ、滋賀県で育つ。パン屋になりたくて、
大手ベーカリーチェーンに就職、広島や福岡、鳥取
などで働く。鹿野町の古民家を改修して、2011年4
月に念願の「パン・心庵」をオープン。

地域の

地域の協力で60年ぶりに 大麻草栽培を復活

上野俊彦さんは、八河谷集落
で大麻草の栽培に挑戦してい
る。栽培用の大麻草は、麻薬成
分がなく薬物に利用できない
「無毒大麻」で、昔は繊維などに
活用するため各地で栽培されて
いた。

以前に働いていた群馬県の農
場で、大麻草の栽培にかかわっ
ていた俊彦さん。移住後、綾木
守さんから昔は八河谷でも大麻
草を栽培していたことを聞き、
ここでの栽培を決意した。

八河谷の人たちの協力で以前
栽培していた裏付けとなる資料
を集め、智頭町のバックアップ
のもと、2013年4月に大麻
草の栽培許可を得た。

●上野俊彦さん ●啓江さん
●澤莉ちゃん ●真帆ちゃん

9月には、茎から繊維を取り
出す麻の桶蒸し法の公開実験が
行われ、県内外から1500人以
上に参加した。「新しい人が来
て、昔の技や生業を継いでくれ
るのは集落にとつてもいいこと
うれしいですね」と守さん。

「種は味噌や油などの食用に、
茎の皮は繊維や注連縄に、茎の
芯は炭に、根は土壌改良にと、大
麻草はさまざまに活用できま
す。ここでの栽培を増やしてい
きたいですね」



神戸出身の俊彦さんと
大阪出身の啓江さんは、
田舎暮らしを目指し群
馬県の山奥で農場を開
いた。東日本大震災で
避難し、2011年10月
に移住。澤莉ちゃんは、
「森のようちえん」に通
っている。

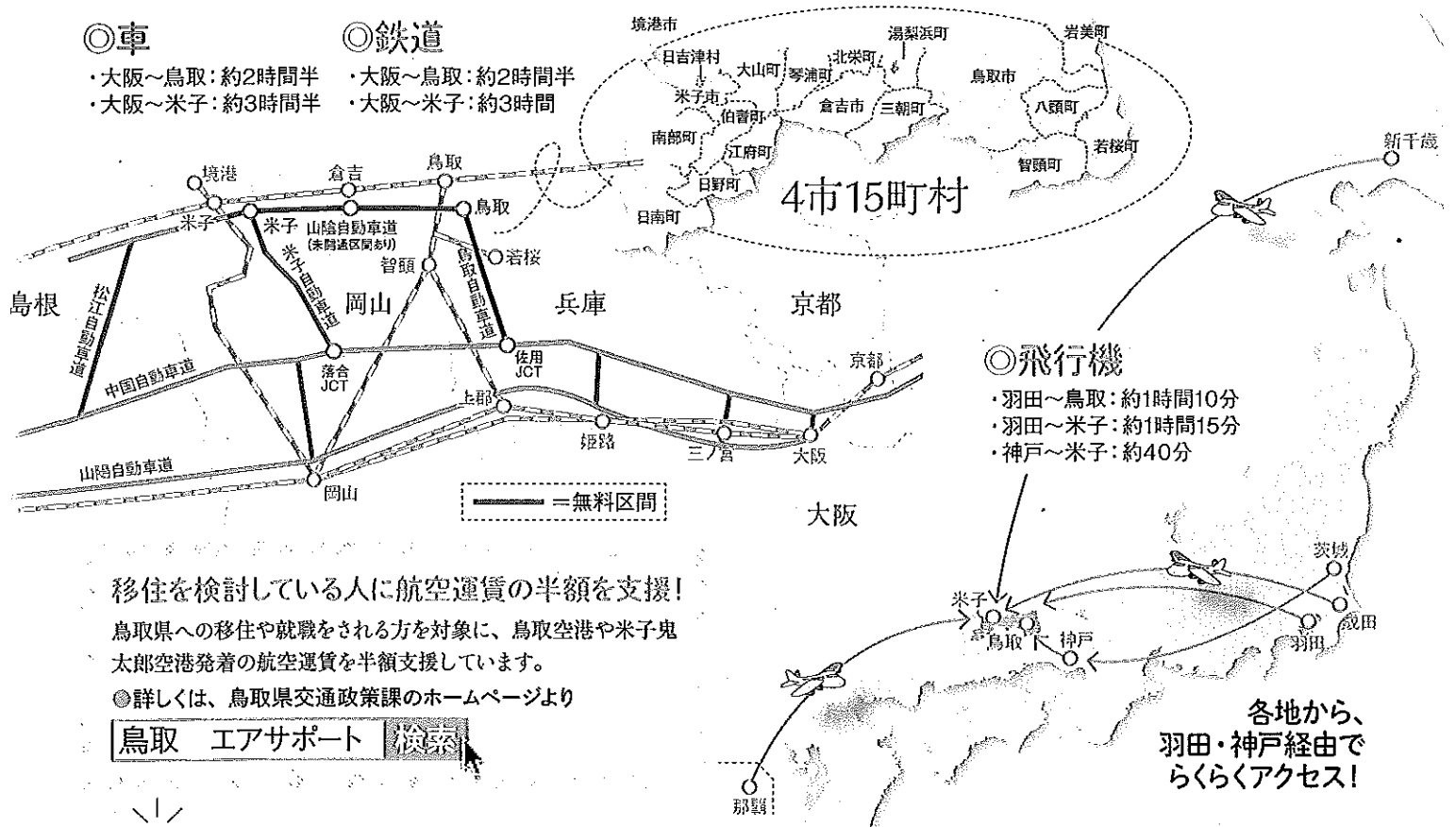
鳥取県へのアクセス

◎車

- ・大阪～鳥取：約2時間半
- ・大阪～米子：約3時間半

◎鉄道

- ・大阪～鳥取：約2時間半
- ・大阪～米子：約3時間



◎飛行機

- ・羽田～鳥取：約1時間10分
- ・羽田～米子：約1時間15分
- ・神戸～米子：約40分

各地から、
羽田・神戸経由で
らくらくアクセス!

移住を検討している人に航空運賃の半額を支援!
鳥取県への移住や就職をされる方を対象に、鳥取空港や米子鬼太郎空港発着の航空運賃を半額支援しています。

◎詳しくは、鳥取県交通政策課のホームページより

鳥取 エアサポート

いいね! 鳥取CM



とっとり移住定住ポータルサイトでも
ご覧になれます。

いいね! 鳥取移住

動画サイト「YouTube」に鳥取県へ移住
された方の暮らしぶりがわかる動画をアップ
しています。移住者さんの生の声で、鳥取県
の美しい海、子育て環境、農業のこと……、
たくさんの「いいね!」をお届けします。



鳥取県への移住の相談窓口(仕事、住まい、子育てなど)

大阪相談窓口 (利用時間/平日8:30~17:15)

☎ 0120-928480

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-1-3-2200
大阪駅前第3ビル22階 鳥取県関西本部内

東京相談窓口 (利用時間/平日8:30~17:15)

☎ 0120-372315

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館10階 鳥取県東京本部内

鳥取県移住定住サポートセンター (公益財団法人 ふるさと鳥取県定住機構)

☎ 0120-841558

(利用時間/平日8:30~17:15)

〒680-0846 鳥取県鳥取市扇町7 鳥取フコク生命駅前ビル1階
☎0857-24-4740 ✉ iju-tottori@furusato-tori.org

とっとり移住定住ポータルサイト ※全市町村の相談窓口も紹介しています。

とっとり移住定住 <http://furusato.tori-info.co.jp/iju/>



ご来場の皆様へ

本日は、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。

下記「いなか暮らし相談票（6枚つづり）」の記入例を参考に2枚目の「受付提出用」にご記入していただき、受付へお渡しください。

【いなか暮らし相談票の提出手順】

1. 1枚目「表紙(記入例)」(提出不要)
2. 2枚目「受付提出用」(来場された際、記入後必ず受付へ提出してください)
 なお、3枚目以降の「相談ブース提出用」が4枚複写になっておりますので、ボールペンで強く丁寧に記入してください。
3. 3枚目～6枚目「相談ブース提出用」(団体に相談を希望される際、必ず1枚お渡しください)
4. 4団体以上の相談をご希望の方は、再度「いなか暮らし相談票（6枚つづり）」に記入していただき、「相談ブース提出用」のみ活用ください。
 ※この時、2枚目の「受付提出用」の提出は不要です。
5. この用紙が、余った場合や記入ミスのため不要になった場合は、個人の責任において処分してください。

記入例

※ご提供いただいた個人情報は、鳥取県への移住相談対応以外の目的で利用することはありません。
 ※4枚複写になっております、力強くご記入ください。

受付提出用

いなか暮らし相談票

フリガナ	とっとり はなこ		年齢	性別
氏名	鳥取 花子		35	女
住所	〒 〇〇〇-〇〇〇〇	県名	大阪	都・道・府・県
	〇〇〇 〇 丁目 〇〇	番地	〇〇〇〇〇	市・区・町・村
出身地	〇〇	都・府・県	〇〇	市(区)
電話番号	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇		E-mail	〇〇〇〇〇〇〇@〇〇〇〇.co.jp
携帯電話	090-〇〇〇〇-〇〇〇〇			

[1] 移住に関する希望

● 移住地 決めている [] はっきり決めていない []

複数回答可 → [2] 希望する田舎暮らし (該当に○印)

山の近く 海の近く 温泉の近く 家庭菜園 古民家暮らし 駅近く お店が近く 子育て お店をしたい 学校の近く 病院の近く その他 []

[3] 移住に関する希望

● 移住予定者 単身 夫婦 家族 (配偶者〇〇、子2人) その他 []

● 移住の時期 すぐ 〇 月後 〇 年後 未定 その他 []

[4] 現在のお仕事

現在の職業 [〇〇〇〇〇〇〇〇] ※ 業種名、従事内容等も出来るだけ記入下さい。

[5] 移住後の仕事の希望

農業 林業 池業 畜産業 自営業 一般企業 その他 []

[6] 移住後の住居について

● 住宅形態 指定無し アパート マンション 戸建て (古民家・何でもよい) 公営住宅 実家

● 入居方法 指定無し 購入 (新築・中古) 賃貸 駐車場 必要 不要

[7] 本日のイベントについて

このイベントを知ったきっかけは? 自由記載 (〇〇〇〇〇〇〇〇)

[8] 本日のイベントの同行者

お名前	〇〇〇 〇〇	性別	配偶者	お名前	〇〇〇 〇〇〇	性別	子
-----	--------	----	-----	-----	---------	----	---

[9] 今後、ご案内希望

今後の資料送付 (希望 不要) 備考

自由記載

※ご提供いただいた個人情報は、鳥取県への移住相談対応以外の目的で利用することはありません。

相談ブース提出用

※相談時にブース1枚づつお渡しください。

いななか暮らし相談票

フリガナ				年齢	性別
氏名					
住所	〒	県名	都・道・府・県		市・区・町・村
	丁目		番地	アパート マンション名	部屋 番号
出身地		道・府・県	市・郡		
電話番号				E-mail	
携帯電話					

【1】移住に関する希望

●移住地 決めている [] はっきり決めていない []

複数回答可→

【2】希望する田舎暮らし（該当に○印）

山の近く・海の近く・温泉の近く・家庭菜園・古民家暮らし・駅近く・お店が近く・子育て・お店をしたい・学校の近く・病院の近く その他 []

【3】移住に関する希望

●移住予定者 単身 夫婦 家族 [] その他 []

●移住の時期 すぐ 〃が月後 〃年後 未定 その他 []

【4】現在のお仕事

現在の職業 [] ※ 業種名、従事内容等も出来るだけ記入下さい。

【5】移住後の仕事の希望

農業 林業 漁業 畜産業 自営業 一般企業 その他 []

【6】移住後の住居について

●住宅形態 指定無し アパート マンション 戸建て（古民家・何でもよい） 公営住宅 実家

●入居方法 指定無し 購入（新築・中古） 賃貸 ●駐車場 必要 不要

【7】自由記載

移住定住相談個別受付票

【鳥取】

初回受付	年 月 日	[来訪(分)/TEL(分/ 時台)/メール/お問合わせF/資料請求F]				受付担当		
氏名				フリガナ			性別	年齢
住所	〒	県名	住所1			家族	有	
今後の資料送付	(可・不可)		住所2				無	
TEL 1	E-mail(PC)				メルマガ			
TEL 2	E-mail(携帯)				備考			
移住完了日			移住先					

【1】相談窓口を知ったのは？

[HP / パンフ / イベント () / テレビ・新聞・雑誌 () / () からの紹介 / その他 ()]

【2】鳥取県とのかかわり

●本人	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> あり [<input type="checkbox"/> Uターン (市町村出身) <input type="checkbox"/> その他]
●親・親族 ()	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> あり [<input type="checkbox"/> Uターン (市町村出身) <input type="checkbox"/> その他]

【3】移住に関する希望

●移住地	<input type="checkbox"/> はっきり決めていない []	<input type="checkbox"/> 決めている []			
●移住予定者	<input type="checkbox"/> 単身	<input type="checkbox"/> 夫婦	<input type="checkbox"/> 家族 []	<input type="checkbox"/> その他 []	
●移住の時期	<input type="checkbox"/> すぐ	<input type="checkbox"/> 月後	<input type="checkbox"/> 年後	<input type="checkbox"/> 未定	<input type="checkbox"/> その他 []

【4】現在のお仕事

現在の職業 [] 業種名、従事内容等も出来るだけ記入下さい。

【5】移住後の仕事の希望

農業 林業 漁業 畜産業 自営業 一般企業 その他 []

【6】移住後の住居について

●住宅形態	<input type="checkbox"/> 指定無し	<input type="checkbox"/> アパート	<input type="checkbox"/> マンション	<input type="checkbox"/> 戸建て	<input type="checkbox"/> 公営住宅
	<input type="checkbox"/> 実家	<input type="checkbox"/> その他 [古民家、別荘他]			
●入居方法	<input type="checkbox"/> 指定無し	<input type="checkbox"/> 購入 (新築・中古)	<input type="checkbox"/> 賃貸 (新築・中古)		

【6】初回相談内容

【7】提供資料

<input type="checkbox"/> 定住機構P	<input type="checkbox"/> 来楽暮本	<input type="checkbox"/> 人材B	<input type="checkbox"/> 住宅B	<input type="checkbox"/> 担い手	<input type="checkbox"/> 就農舎	<input type="checkbox"/> 漁業	<input type="checkbox"/> 林業
<input type="checkbox"/> () 市・町・村資料		<input type="checkbox"/> その他					

【8】取次・紹介先

<input type="checkbox"/> 市町村 ()	<input type="checkbox"/> 担い手	<input type="checkbox"/> 就農舎	<input type="checkbox"/> 他課 ()	<input type="checkbox"/> 宅建業協会
<input type="checkbox"/> その他 ()				